

両親の思い届く「厳罰」

2年9カ月：遺影抱き涙

3児死亡事故



(1面参照)

「胸がいっぱい」。母はこみ上げる思いをそう言葉にするのが精いっぱいだった。「私たち夫婦が思い続けてきたことが裁判長に伝わった」と父。15日、福岡高裁であった3幼児死亡事故の控訴審判決。1審より重い懲役20年とされた今林大被告(24)の写真は、法廷に姿を見せなかった。

大上哲央さん(36)、かおりさん32夫妻は遺影を抱き、傍聴席の最前列に座った。「被告を懲役20年に処する」。裁判長の言葉に、

かおりさんははっとした表情で目を見開き、隣の哲央さんを見た。言い渡しの前から、緊張のためか小刻みに震えていた。

大上哲央さんは妻に添えて大きくうなずき、わずかにおえつをもらした。2人は判決理由にじっと聞き入り、裁判長が危険運転致死死傷罪を認定するくだりに差ししかると、何度もうなずいた。

閉廷後、記者会見した夫妻は「事故から今日まで、毎日本当に苦しかった」と振り返った。事故は幸せな家族を瞬時に引き裂いた。真つ暗

な海に漂り、沈んでいく車内から3児を助け出そうとした夫妻。あの日から2年9カ月近くが過ぎた今も、哲央さんは後遺症の頭痛に悩む。かおりさんも、当時刺さったガラスや貝殻の破片が、痛みとともに体から出てくるという。

「3人の子供の命を奪った罪と向き合ってほしい」。事故後、海外で暮らさざるをえなくなった夫妻だが、控訴審では「被告に思いを伝えられるのは最後」とそろって意見陳述した。

今林被告の弁護士によると、同被告は保釈後、月命日に事故現場にお参りに行くなど、3児に手を合わせる日々を送っている。

決理由にじっと聞き入り、裁判長が危険運転致死死傷罪を認定するくだりに差ししかると、何度もうなずいた。

閉廷後、記者会見した夫妻は「事故から今日まで、毎日本当に苦しかった」と振り返った。

事故は幸せな家族を瞬時に引き裂いた。真つ暗

な海に漂り、沈んでいく車内から3児を助け出そうとした夫妻。あの日から2年9カ月近くが過ぎた今も、哲央さんは後遺症の頭痛に悩む。かおりさんも、当時刺さったガラスや貝殻の破片が、痛みとともに体から出てくるという。

「3人の子供の命を奪った罪と向き合ってほしい」。事故後、海外で暮らさざるをえなくなった夫妻だが、控訴審では「被告に思いを伝えられるのは最後」とそろって意見陳述した。

今林被告の弁護士によると、同被告は保釈後、月命日に事故現場にお参りに行くなど、3児に手を合わせる日々を送っている。

結論ありきの判決

裁判員制度に影響

交通事故裁判に詳しい高山俊吉弁護士の話「非常に問題の多い判決で強い違和感を覚える。事故後の飲酒検知で被告は微酔状態であり、危険運転致死傷罪を認定するにはかなりの説明が必要だが、判決では十分に果たされていない。厳罰化をにらんだ結論ありきの判決ではないか。危険な交通手段をなくすための落ち着いた議論が行われないまま、今回の判決は処罰万能論に拍車をかける危険性がある」

飲酒事故の根絶に取り組むNPO法人「MADDジャパン」の飯田和代理事長の話「審判決に左右されず危険運転致死傷罪を適用した、非常に画期的で血の通った判決だ。被告は判決内容を真摯に受け止め、3人の幼い命を奪った罪とまっすぐに向き合っている。裁判員制度が始まれば、危険運転致死罪は制度の対象となる。今回の判決は、裁判員として参加する国民にとって大きな影響を与えると思う」

愛知3人殺傷現場で被害者以外のDNA、愛知県蟹江町の会社員、山田喜保子さん(57)方で親子3人が殺傷された事件で、現場から3人の被害者とは異なる型のDNAが検出されたことが15日、分かった。捜査幹部が明らかにした。蟹江署捜査本部は犯人の特定につながる重要な手掛かりとみて詳しい鑑定を進める。

捜査本部によると、現場には大量の血液のほか、遺留品とみられる上着や犯人が手を付けた可能性のある食事の跡があった。血液や毛髪などを採取、鑑定した結果、殺傷された喜保子さんと次男、雅樹さん(26)ら3人のほか、別居している長男と四男の型とも異なるDNAが検出された。

また、現場から手袋痕が見つかったことも判明。捜査本部は犯人が指紋を残さないように手袋をしていた可能性が高いとみている。